

未婚・子ナシの“負け犬”女性たちを 赤裸々に語り、説得するエッセイ集

現代社会のなかで起こっている最も劇的な変化はおそらく人口成長率の急速な落ち込みということであろう。日本ではこの数年内に総人口が減少を始めると見られている。この背後にあるのが、若い世代の未婚化であり晩婚化であり、その結果としての少子化である。晩婚化の実態として、現在三〇歳の女性の五〇％は未婚であり、彼女らが五〇歳になっても二〇％は結婚していないであろうという予測がある。男性の未婚率はそれよりも高いので、この世代は歴史的に未曾有の未婚世代となると考えられている。

本書は、その世代に属する著者が、三十代以上で独身、子ナシの女性たちを「負け犬」と呼び、なぜ結婚しないのか、何を考えて日々を過ごしているのかを赤裸々に語ったユーモア溢れるエッセイ集である。

著者によれば、「日本に住む雌雄の負け犬達は、結婚をしないで子供を産み育て

ているわけでもなければ、結婚をしない方が良いという確固たる信念を持っているわけでもありません。オスもメスも、異性に求める

子供の数も減るばかり」ということである。

この世代はバブル崩壊後、パラサイトシングル世代と呼ばれ、批判的に描かれて



負け犬の遠吠え

酒井順子著
講談社 本体価格1400円

ものがあまりにも違うせいで、結婚したい相手もないし、しないでいるか”程度の気持ちで、ただ漫然と歳をとっていくだけなのです。子供を欲する気持ちは持っていない、結婚をせずに子供を産み育てる土壌は日本には存在しないので、

いたが、著者は洒落な文章によって、かなりきわどい発言を続けながら、負け犬の生き方を説得することに成功している。その力量には脱帽せざるをえない。

彼 女らは各方面で重要な仕事をこなし、茶道、古典芸能、バレエ、フ

この本の 目次

- 余はいかにして負け犬となりし乎
- 負け犬発生の原因
- 負け犬の特徴
- 負け犬の処世術
- 負け犬と敗北
- 負け犬にならないための10ヵ条
- 負け犬になってしまった後の10ヵ条

著者 プロフィール

さかい・じゅんこ／1966年東京都生まれ。立教大学社会学部観光学科卒。コラムニスト。高校在学中に泉麻人に見込まれ、雑誌に連載を持つ。大学、3年間の会社員時代も、本業を満喫しつつ複数の連載をこなし、円満退職後、ついに本職に。著書に『少子』『ホメるが勝ち!』『煩惱カフェ』など多数。

負け犬を生かす 社会の必要性

現在の社会的価値観は、従来の「結婚して子どもを生むことが女の幸せ」というものから、著者の次のような考え方にシフトしてきている。すなわち、「こまで負け犬という単語を連呼してみると、勝ちだの負けだのということが、ほと

とどうでもいいことのように思えてくるものです。読者の皆様にも、そのどうでもいい感じが少しでも伝われば、幸いです。また負け犬の皆さんには『あなただけじゃない』ということを、そして勝ち犬の皆さんには『世の中には色々な人がいる』ということをもご理解いただければ、筆者としても負け犬になった甲斐があったというものです。

本書を読んで、彼女らを無理して結婚させ出産させるような政策は機能しないし、彼女らの特性を生かすことにはならないと確信した。むしろ彼女らを含めさまざまな多様性を受け入れるように社会を変えていくことこそが必要であると考えるようになった。だまされたと思ってぜひ一読を。